



# Close up だて

## — 来訪者の「癒し」になれば との思いで続けています —

なかにし  
**中西 トミさん**  
(館山町)



市長応接室で花を生ける中西さん



夏らしく涼しげな作品になりました

**市** 役所2階の「市長応接室」。市長が市民の皆さんと市政に関する意見交換やご要望を伺うこの部屋に、現在まで30年以上も花を生け「彩」を添えるボランティア活動を続けているのは、館山町にお住まいの中西トミさんです。昭和54年、北稀府町の故安住トシさんが殺風景な市長応接室を見て「一輪でも花を」と考えて始めたこの活動に中西さんが賛同し、安住さんがこの世を去った今でも市役所を訪れて続けています。「花は育った環境で香りやたずまいが違います。それぞれの個性を尊重し、全体として調和させたときの美しさが生け花の魅力です。花の向きを考えて、花自身が喜ぶように心がけています」と中西さん。

当初は、市長応接室への敷居が高く感じたり、枯れた花の処分で市職員に迷惑をかけることにも遠慮を感じていたとのこと。それでも夏季には中西さんがご自宅ですでに愛情を注いで育ててきた花々を市役所に持参し、自然そのままを再現するかのよう美しい生け花を披露して、市長応接室を訪れる多くの方を喜ばせています。「最近の世の中には、さまざまなお悩みを抱えている人が多いと思います。美しい花には癒しの効果がありますので、皆さんのご家庭にも『美』を取り入れて欲しいです。美が心を豊かにしてくれると、きつと健康増進にもつながりますね」と中西さんは笑顔で話してくれました。

### 表紙のはなし

まずは先月号の表紙から。市の取り組みを皆さんにも知ってもらいたいとの思いが「カラー表紙」という形に。市のホームページ「広報紙へのご意見募集」のページに感想などを寄せください。

さて、白黒に戻った今月号は「伊達保育所・うす保育所の海水浴」。地引き網体験のはずが、気まぐれな天気のおかげで海水浴に!? 子どもたちは砂まみれになりながら楽しんでいました。

### 楽 画 記

■先月号の表紙は華やかなカラー刷りの「いちご」。多方面から好評をいただきました。手応えは十分。ただ、そこに至るまでの道のりは厳しく、険しく、果てしなく…。特に(じ)さんには多大なる迷惑を。でも、市の特産品になるであろう「いちご」のPRIは「今」しかなかったのです!(と)

■先月号は久しぶりのカラー表紙で、作例の私たちはいつもと違う気合いが入りました。そしてふと思う「見てくれた方はどう思っただろう?」。そんな思いから、広報紙読者の皆さんが気軽に意見を言える場所をホームページに開設しました。ぜひ広報だてへのご意見ご感想をお寄せください。(や)

■広報だて7月号のカラー表紙「いちご」…。広報担当5年目の私でも、これほど衝撃的かつ思い出深い「号」は初めてかも?! 伊達の新たな特産品としての道を歩む「いちご」の存在感を誇示するにはきつと十分だったはず! 実はこの企画、(と)の熱い熱い思いがきっかけ。裏でいろんな方に怒られました。(じ)